

【17 長崎ロープウェイ Nagasaki Ropeway】



前田 康治氏
稲佐山の山頂展望所から(雲仙岳の手前の鞍部が日見峠)

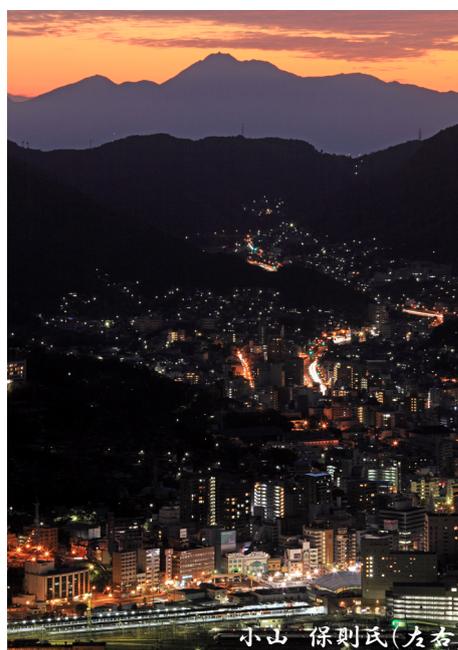
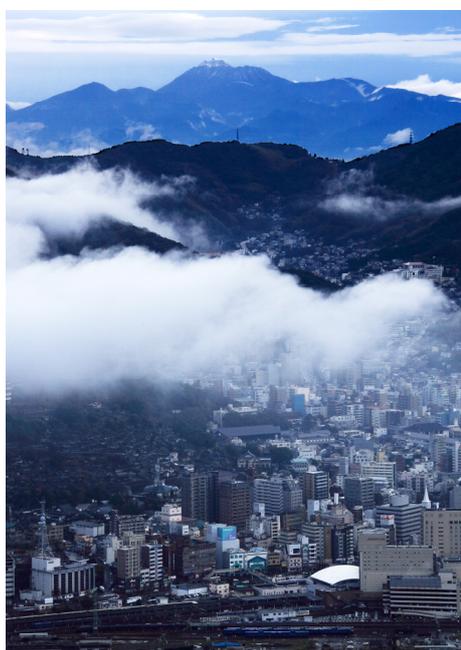
長崎ロープウェイでは、ロープウェイ内や稲佐山山頂展望所から、長崎市内の街並み・日見峠越しに“西面の雲仙岳”が眺望できます。時には、JR 長崎駅に停車している特急とセットで雲仙岳が眺められる場合もあります(↓)。また、夕方に空気が澄んでいれば、香港・モナコとともに“世界新三大夜景”に選ばれている長崎の夜景越しの雲仙岳を楽しむことも可能です(↓)。

江戸後期に來日して長崎出島のオランダ商館に勤務したドイツ人の博物学者・シーボルトは、日見峠から眺めた雲仙岳の景観を著書“日本”の中で詳しく紹介しています。彼は、雲仙岳の調査登山も行い、雲仙温泉の泉質や眉山の大崩壊についてもヨーロッパに紹介しています。また、幕末の頃、勝海舟・坂本龍馬の一行が江戸から長崎に出張した際には、大分から熊本を経て有明海を渡り、雲仙岳山麓の街道より日見峠を通過して長崎に到達したとされています。この大分から長崎に至る別ルートとして、現在では国道 57 号線が通っていますが、この国道は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路(別府市～くじゅう～阿蘇カルデラ～熊本市～雲仙～長崎市)の一部となっています。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、長崎ロープウェイで旅してみませんか？

●長崎ロープウェイの情報はこちら↓

一般財団法人長崎ロープウェイ・水族館 <http://www.nagasaki-ropeway.jp/>



稲佐山の山頂展望所から
小山 保則氏(左右)